

# ニューズレター 2013 年度第 1 号

日本音楽表現学会 2013 年 7 月 31 日発行

## 日本音楽表現学会第 11 回（イーハトーヴ）大会特集

	目	次
【巻頭言】「身体が聴いた音」	.....	北山 敦康 2
日本音楽表現学会第 11 回（イーハトーヴ）大会報告	.....	3
イーハトーヴ大会を終えて	.....	佐々木 正利 3
2013 年度総会報告	.....	5
大会スナップ集	.....	12
会員の感想：イーハトーヴ大会に参加して	.....	井上 幸子 16
〃	.....	甲斐 万里子 16
「研究サロン」連絡係から	.....	17
【書籍紹介】東川清一著『音律論 ソルミゼーションの探究』について	.....	杉山 雄一 19
新入会員紹介	.....	20
日本音楽表現学会後援コンサート等情報	.....	21
会員による新刊	.....	23
教員公募情報	.....	24
研究支援情報	.....	24
事務局からの重要なお知らせとお願い	.....	24
各種書式	.....	25
日本音楽表現学会第 12 回大会のご案内	.....	26
2013 年度役員一覧・編集後記	.....	26

### 日本音楽表現学会



所在地：〒 616-8025 京都市右京区花園土堂町 1-6

事務局：〒 520-0862 大津市平津 2-5-1 滋賀大学教育学部杉江研究室気付

Tel. & Fax. 077-537-7792

E-mail: music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

<http://www.music-expression.sakura.ne.jp/>

年会費 (5,000 円)

振込先 → 郵便振込口座：01370=6=78225 日本音楽表現学会

## 身体が聴いた音

北山敦康（サクソフォン・音楽教育学）

私はよく学生たちに「網膜に映ったからといってそれが見えているわけではない。鼓膜が振動したからといってそれが聴こえているわけではない」というようなことを言います。実際、はじめて犬を飼ったとき、近所にたくさん犬を飼っている家があることを知りました。珍しいと思って買った車で街に出て、同じ車がたくさん走っていることに驚いたこともあります。意識するまでそれは無いに同然で、意識したときにはじめてその存在に気がつくということはよくあることです。

サクソフォンは非常に合理的なキーシステムを持っていて、1つのオクターブキーで2つのベントホールが自動的に切り替わったり、G#のトーンホールを開いたままでもそれが不要な場合には他のキーと連動して自動的に閉じたりします。メカニズムの点では他の管楽器よりもずっと洗練されています。先日、アドルフ・サククスによって製作された初期のサクソフォン（1867～1869年製）を吹く機会がありました。オクターブキーが2つあって、G#キーの連動がありません。しかし、この不便さが吹いていて何とも楽しいのです。たしかに音色が現代のものとはまったく違うということもありますが、原始的なキーシステムならではの操作性に触発される特有の音楽表現がそこにあるのです。これは単に作品の時代様式の違いということではなく、現代の楽器では味わうことのできない身体感覚と言っていいかもしれません。

また、私は1年ほど前から合成樹脂のリードを使っています。手元に未開封の天然リードの箱がたくさんあるにもかかわらずこれを使い始めたのは、多忙な毎日で練習時間を確保するための苦肉の策でした。最近の合成樹脂リードには天然素材のリードに全く劣らない優れた品質のものがあり、マウスピースとのマッチングによって音色もレスポンスも十分に満足のいく演奏ができます。しかし、かつてのようにブツブツと不満をいいながらリードナイフやヤスリを動かし、思い通りにならないリードと語り合いながら練習してきたときの何かがそこにはないのです。あの不合理で満たされない時間の中で私が学んだものがあつたとすれば、それは何だったのでしょか。そこに大事なものがあつたような気がしてなりません。

音楽表現というのは、単に作品をどう解釈してどう演奏するかということだけではなく、音楽と人間のインターフェイスとしての楽器と自分の身体に対する意識のありように深く関わっているのではないのでしょうか。写真係として飛び回っていた先日のイーハトーヴ大会の会場で、そういった話ができそうな予感を持ってサロンの輪に入ったとき、そこに私が探し求めている答えがあるような気がしました。次の奈良大会（帝塚山大学）では私の中でその答えがより明確になるかもしれません。私の心は早くも新緑薫る奈良の丘に飛んでいます。



アドルフ・サククス（1814-1894）

## 日本音楽表現学会第11回（イーハトーヴ）大会報告

### 1) 『イーハトーヴ大会を終えて』

大会実行委員長 佐々木正利

6月10日の深夜、北から北上川、西から雫石川、東から中津川と3本の一級河川が合流する地点に立地する盛岡駅の西口からほど近く、前日まで活気にあふれた大会が繰り広げられたマリオスとアイナのあいだの通路を北西に急いだわたしの目に、満天の星が飛び込んできました。

そのまっ黒な、松や檜の林を越えると、俄にがらんと空がひらけて、天の川がしらしらと南から北へ亘ってゐるのが見え、また頂き、天気輪の柱も見わけられたのでした。

『銀河鉄道の夜』

天の川の季節にはまだちと早く、また松や檜林ならぬビル群の脇を通ってのことでしたが、道先彼方には、賢治がこよなく愛した岩手山が、その山行の道すがら牧草に寝転び、遙か銀河に想いを寄せた小岩井農場をふところに抱いて、星明かりのなか、どっしり構えていました。

そういえば、かの啄木も岩手山を遠くに眺めつつこう詠んでいます。

こずかた  
不來方のお城の草に寝ころびて  
空に吸はれし十五の心  
ふるさとの山に向ひて言ふことなし  
ふるさとの山はありがたきかな  
『一握の砂』

北は北海道、南は沖縄・九州より、全国からたくさんの方にご参集いただき開催されましたイーハトーヴ大会、おかげさまを持ちまして成功裡に終えることができ、スタッフ一同心より感謝いたしております。震災の痛手からまだ抜けやらぬ私たちにとっては、有形無形のはげましとなりました。ほんとうにありがとうございました。

折しも一日目の6月8日は、国から無形民俗文化財の指定を受け、環境省の「残したい"日本の音風景100選"」に認定されている『チャグチャグ馬コ』の日。かつては五穀豊穡を願い農耕に携

わる馬たちに感謝する意味合いがあったものの、農耕馬としての役目を終えた現在では、滝沢村鬼越蒼前神社から盛岡八幡宮までをパレードするイベントの祭礼へと変わりましたが、その一群が大会のオープニング行事の直前に盛岡駅前に来るとあって、ごらんになられた方も多かったのではないのでしょうか。この日は、むかしから晴れの特異日で、わたしたち岩手人のこころのシンボルである岩手山こそ顔を出さなかったものの、6月の盛岡としてはめずらしい27℃まで気温も上がり、上々の滑り出しをみせました。

今大会は片田舎の岩手での開催ということで、みなさまへのおもてなしのこころだけはあるものの、はたして円滑な運営ができるかという心配と同居しながらの大会となりました。会場も、例年のコンパクトな配置と異なり、二つの公共施設にまたがり何かと制約の多い展開に、われわれスタッフだけでなく学会本部の役員のみなさまにもご心配をおかけすることになり、大変申し訳なく思いました。

こうした不便や不安を解消すべく、動線をふくめて会員のみなさまが路頭に迷うことがないように、スタッフ別に色違いのポロシャツを着てご案内すること、またそのスタッフ数を十全に確保することに気をつけ、全力で任にあたりました。さらに岩手での大会らしく、いろいろな意味で地元色をつよく反映させ、参会者に「来てよかった」と思っただけのような特色を掲げる工夫をいたしました。

具体的には、賢治に焦点を当てた基調講演とワークショップ、音楽表現学会らしい上質なオープニングコンサート、そしてアトリウムコンサートの開催、それに若干番外編っぽくなりますが、おもてなし懇親会の充実などが挙げられます。特に、佐藤泰平氏による内容の濃い講演とワークショップ『かしはばやしの夜』の上演は、今回の学会の超目玉となりうれしかったです。

さて話は突然変わりますが、先日6月22日、富士山がユネスコの世界文化遺産に登録されたの

は周知のとおりです。その認定が遅いか妥当かは議論の分かれるところでしょうが、当地岩手には、それに先立つ2年前の6月26日に世界遺産リストに登録された平泉があります。正式な登録名「平泉～仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群～」による浄土庭園なのですが、理由としては、アジアからもたらされた作庭概念との交流がうかがえ、その後の仏堂・庭園に影響を与えたこと、読み上げた『落慶供養願文』には、官軍（朝廷）や蝦夷を問わず、また人命だけでなく獣や鳥など犠牲になったすべての霊を慰め、極楽浄土に導きたい、と記されています。このような万人平等を願う高邁な理念は、時や人種を越え、今なお色褪せることのないメッセージとして現代に訴え、その治世の考え方は21世紀の今も多くの示唆に富んでいるものと言えましょう。

この藤原清衡のおじいさんが「前九年の役」で降伏して都に連行された安倍宗任あべのむねとうでした。奥州奥六郡（岩手県内陸部）を基盤とし、父・頼時よりとき、兄・貞任さだとうとともに源頼義みなもとよりよし・義家父子と戦い、一族は奮戦したのですが、結局貞任らは最北の磐厨川柵（盛岡市）で殺害されてしまいます。しかし宗任は降伏し一命をとりとめ、源義家に都へ連行されることになりました。その際、奥州の蝦夷えみしは花の名など知らぬだろう、と侮蔑した公家が、梅の花を見せて何かとからかったところ、「わが国の梅の花とは見つれども 大宮人はいかがいふらむ」と、東北の梅の花を都では何と言うのか、と歌でもって切り返し、都人を驚かせたというのです。



たしかに古代の日本において反朝廷派勢力として東北地方の住民は蝦夷と呼ばれていました。この呼称はヤマト王権側がつけた蔑称であり、ヤマ

トタケル神話などでは征伐される対象として登場するため、どうあれ文明の低い「未開人・蛮族」というニュアンスで使用したと考えられ、いずれにしても現在の日本の基盤となっているヤマト王朝の中心地として栄えた畿内（近畿一円）から離れた地域は、歴史的にも下位に見る傾向があったのですね。

余談ですが、この宗任は後に伊予の国に流され、その後ふたたび、少しずつ勢力をつけたがために、九州の筑前国宗像郡の筑前大島むなかたに再配流されることとなります。そして、その子孫が巡りめぐって山口県長門市油谷ゆやに流罪となって辿り着いています。現在の内閣総理大臣安倍晋三氏の父親である安倍晋太郎氏が、かつて「安倍家のルーツは岩手県、東北の王者だった安倍一族の末裔だ」と、自分たちには蝦夷の血が流れていると発言していたのを思い出します。ふと歴史を見てみますと、内閣総理大臣を輩出した県の一番手は山口県（8人）ですが、岩手県が第2位（5人）につけているのも何かの因縁を感じさせるではありませんか。

ときに賢治のふるさと花巻ではトンボのことを「アゲヅ」と呼びますが、万葉時代はトンボを「あきず（秋津）」と言っていました。それだけではありません。津波で大被害を被った三陸の気仙地方では「わざわざ」を「ヤグヤグ」と言いますが、このことばは鎌倉期の『宇治拾遺物語』にあるそうですし、また盛岡で古くから使う「スネエ」（噛み切れない、の意）は『万葉集』にある「撓う（しなう）」のなまりではないかと推量する人もいます。さらに時間を大幅に縄文の昔に戻せば、東北が文化の中心だったことは今では周知のことですし、さすれば来年の大会が奈良の帝塚山大学で開催されるのは、何かの奇縁なのかなと思うのは私のこじつけでしょうか。

ふしぎな歴史のはなし。

これらのわたくしのおはなしは、みんな林や野はらや鉄道線路やらで、虹や月あかりからもらってきたものです。

『注文の多い料理店』序

### 3) 2013 年度総会報告

日 時：2013 年 6 月 8 日 (土) 15:40～16:40

場 所：マリオス小ホール

出席者数：57 名、委任状 129 通 合計 186 名

(会員総数：2013 年 6 月 8 日現在 435 名、定足数：145 名)

記 録：笹野恵理子

1. 開会の辞：杉江淑子事務局長
2. 議長選出：会員の総意によって以下の会員が選出された。  
議長：木下千代 書記：笹野恵理子
3. 報 告：「総会資料」に基づき以下の事項が報告され、承認された。  
(1) 2012 年度事業報告 (2011 年 4 月 1 日～2012 年 3 月 31 日)  
杉江淑子事務局長より、【資料 1】に基づき報告があり、承認された。

【資料 1】	2012 年度事業報告 (2012 年 4 月 1 日～2013 年 3 月 31 日)		
1. 第 10 回 (Blue Valley) 大会	2012 年 6 月 23 日 (土)～24 日 (日)	於：山梨大学甲府キャンパス	
2. (2011 年度理事会)	最終回 2012 年 6 月 23 日 (土) 10:00-12:00	於：同上 (新理事オブザーバー出席)	
2012 年度理事会	第 1 回 2012 年 6 月 24 日 (日) 17:00-18:00	於：同上	
	第 2 回 2012 年 12 月 1 日 (土) 10:00-16:00	於：京都市北文化会館	
	第 3 回 2013 年 3 月 31 日 (日) 10:00-16:00	於：滋賀大学大津サテライト	
	その他 電子媒体による持ち回り会議		
3. 学会誌編集委員会	第 1 回 2012 年 6 月 23 日 (土) 10:00-12:00	於：山梨大学甲府キャンパス	
	第 2 回 2012 年 8 月 16 日 (木) 14:00-21:00	於：スタジオ AND	
	第 3 回以降 電子媒体による持ち回り会議と編集作業等		
4. 学会誌『音楽表現学』Vol.10 発行	2012 年 11 月 30 日 (金)		
5. ニュースレター発行	No.1 2012 年 7 月 31 日 (火)		
	No.2 2012 年 11 月 30 日 (金)		
	No.3 2013 年 3 月 31 日 (日)		
6. 会員名簿発行	2012 年 11 月 30 日 (金)		
7. 『音楽表現論文執筆のしおり』発行	2013 年 3 月 31 日 (日)		
8. 後援	22 件 (目標件数 30 件)		
9. 会員数	414 名 (2013 年 3 月 31 日現在) (目標値 400 名)		

#### (2) 第 10 回 (Blue Valley) 大会決算報告

吉永誠吾会計担当理事より、【資料 2】に基づき報告があり、承認された。続いて、第 10 回 (Blue Valley) 大会の藤原嘉文実行委員長より、会員に対する謝辞が述べられた。

#### 【資料 2】 第 10 回 (Blue Valley) 大会決算報告

【収入】	費 目	金 額	備 考
	大会参加費	794,000	学会員：5,000 円×134 名= 670,000 円 当日会員：3,000 円× のべ 30 名= 90,000 円 学生会員：2,000 円× のべ 17 名= 34,000 円
	『大会要項』販売	900	1 部 300 円× 3 冊= 900 円
	広告・ブース料	238,640	
	懇親会費	516,000	6,000 円×86 名= 516,000 円
	合 計	1,549,540	
【支出】	費 目	金 額	備 考
	基調講演講師謝礼	100,000	交通費・宿泊費含む。
	パネリスト交通費補助	20,000	10,000 円×2 名 (「震災と音楽表現」 非会員パネリスト)
	会場使用料	68,355	
	ピアノ使用料	99,750	運搬・調律代を含む。
	学生アルバイト謝金	189,600	800 円/h
	会議費 (アルバイト昼食含む)	64,000	

大会事業経費	134,000	参事宿泊費補助(3名×2泊+1名×1泊) 56,000円 大会本部経費 78,000円
印刷費	275,244	『大会要項』
通信費	61,080	『大会要項』 発送費等
文具費	12,429	
懇親会費	506,310	懇親会費 486,000円, 山梨大学ワイン代 20,310円
雑費	6,982	参加者控室茶菓等
振込手数料	2,100	
小計	1,539,850	
一般会計への繰入	9,690	
合計	1,549,540	

### (3) 2012年度会計報告・監査報告

吉永誠吾会計担当理事より【資料3】に基づき報告があり、承認された。また谷口雄資監事より、2012年度会計処理が適正に行われており、会計報告に問題がないことが報告され了承された。

#### 【資料3】

#### 2012年度会計報告・監査報告

##### 【収入】

費目	決算	予算
学会年度会費 (5,000×376名* = 1,880,000)		
親族割引 4,000×6名 = 24,000	1,907,000	1,900,000
学生会員 3,000×1名 = 3,000		
賛助会員会費	5,000	5,000
学会誌売り上げ	44,410	60,000
利息	838	1,000
大会からの繰り入れ	9,690	200,000
雑収入	0	0
小計	1,966,938	2,166,000
前年度繰越	1,201,624	1,201,624
学会基金	3,000,000	3,000,000
合計	6,168,562	6,367,624

##### 【支出】

費目	決算	予算
『音楽表現学』 作成費	449,820	600,000
ニューズレター 作成費	18,840	30,000
名簿 作成費	24,030	20,000
理事会 会議費	15,840	20,000
交通費	146,248	250,000
編集委員会 会議費	0	15,000
交通費	205,840	200,000
論文集 出版補助・購入費	0	0
選挙管理委員会 会議費	0	0
交通費	0	0
郵送費	0	0
大会関連費	83,470	40,000
通信費	116,600	170,000
払込手数料	11,430	5,000
事務費	236,770	200,000
雑費	75,934	120,000
予備費	0	100,000
小計	1,384,822	1,770,000
次年度繰越	1,283,740	1,097,624
学会基金	3,500,000	3,500,000
合計	6,168,562	6,367,624

\*滞納徴収分が含まれ、前年度までの既納入分は除かれている。すなわち年度中に納入された年会費延べ人数分である。

以上の通り報告いたします。

2013年5月12日

吉永 誠吾

小畑 郁男

監査の結果、以上に間違いありません。

2013年5月31日

谷口 雄資

海津 幸子



#### 4) 年会費納入状況について

吉永誠吾会計担当理事より【資料4】に基づき報告があり、承認された。年会費振り込みの際には、「明確で判読可能な楷書で」記入願いたい旨要請があった。

【資料4】 年会費納入状況 (2013年3月31日現在)

会員数	未納状況	納 入 額
414名 (新入会員 59名 退会者 13名)	2010年～8名 2011年～12名 2012年 49名	正会員 5,000円×376名* = 1,880,000円 親族割引 4,000円×6名 = 24,000円 学生会員 3,000円×1名 = 3,000円 総 計 1,907,000円

\*【資料3と同じ】

#### 5) 日本学術振興会「育志賞」推薦について

杉江淑子事務局長より、自薦・他薦のいずれもなかったため、学会として推薦しない旨報告があり、了承された。なお、学会として推薦することの意義に関して質疑があり、年齢、博士課程後期に在籍中であること、『音楽表現学』に発表している者などの、推薦の条件にみあう人がいれば是非推薦してほしい旨回答があった。

#### 6) その他

杉江淑子事務局長より、第31回国際心理学会議への協賛について、本学会が協賛することが報告され、了承された。

## 4. 協 議

### 1) 2013年度事業計画(案)について

杉江淑子事務局長より【資料5】に基づき提案があり、原案通り承認された。

【資料5】 2013年度事業計画 (2013年4月1日～2014年3月31日)

1. 第11回(イーハトーヴ)大会	2013年6月8日(土)～9日(日)	於：盛岡市民文化ホール & アイーナ
2. 2013年度理事会	第1回 2013年6月7日(金) 14:00-16:30	於：岩手大学教育学部
	第2回 2013年11月30日(土) 10:00-16:00	於：未定
	第3回 2014年3月30日(日) 10:00-16:00	於：未定
	第4回(最終回) 2014年6月 大会1日目	於：第12回大会会場
	その他 電子媒体による持ち回り会議	
3. 学会誌編集委員会	第1回 2013年6月8日(土) 10:00-12:00	於：盛岡市民文化ホール & アイーナ
	第2回 2013年8月上旬	於：未定
	第3回以降 電子媒体による持ち回り会議と編集作業等	
4. 選挙管理委員会	第1回 2013年6月9日(日) 12:30-13:30	於：盛岡市民文化ホール & アイーナ
	第2回 2014年2月初旬	於：未定
	第3回 2014年3月下旬	於：未定
	その他 電子媒体による持ち回り会議	
5. 学会誌『音楽表現学』Vol.11 発行	2013年11月30日(土)	
6. ニュースレター発行	No.1 2013年7月31日(水)	
	No.2 2013年11月30日(土)	
	No.3 2014年3月31日(月)	
7. 後援	30件(目標値)	
8. 会員数	450名(目標値)	

## 2) 第11回(イーハトーヴ)大会予算(案)について

吉永誠吾会計担当理事より【資料6】に基づき提案があり、原案通り承認された。

### 【資料6】 第11回(イーハトーヴ)大会予算

【収入】	費 目	金 額	備 考	参考第10回大会決算
	大会参加費	760,000	学 会 員： 5,000円×130名=650,000 当日会員：(1日につき)3,000円×30名=90,000 学生会員：(1日につき)2,000円×10名=20,000	794,000
	広告・ブース料	200,000		238,640
	懇親会費	480,000	6,000円×80名	516,000
	雑収入	0		900
	合 計	1,440,000		1,549,540
【支出】	費 目	金 額	備 考	
	基調講演講師謝礼	100,000	交通費・宿泊費を含む	100,000
	パネリスト交通費補助	0		20,000
	会場使用料	160,000		68,355
	ピアノ他設備使用料	25,000		99,750
	学生アルバイト謝金	168,000	@700円×240h	189,600
	アルバイト昼食代	28,800	@800円×18人×2日	
	会議費(1日目昼食代)	24,000	理事・編集委員・実行委員・参事等昼食代 @800円×30名	64,000
	大会事業経費	60,000	参事・事務局スタッフ宿泊費等 (2名×1泊+1名×2泊+1名×3泊)	134,000
	印刷費	280,000	『大会要項』&ちらし	275,244
	通信費	60,000	『大会要項』発送費等	61,080
	文具費	20,000		12,429
	懇親会費	480,000		506,310
	雑費	34,200		9,082
	小 計	1,440,000		1,539,850
	一般会計への繰入	0		9,690
	合 計	1,440,000		1,549,540

## (3) 2013年度予算(案)について

吉永誠吾会計担当理事より【資料7】に基づき提案があり、原案通り承認された。

### 【資料7】 2013年度予算

【収入】	費 目	2013年度予算	2012年度	
			決 算	予 算
	学会年度会費(5,000×420名* = 2,100,000)	2,100,000	1,907,000	1,900,000
	賛助会員会費	5,000	5,000	5,000
	学会誌売り上げ	60,000	44,410	60,000
	利息	1,000	838	1,000
	大会からの繰り入れ	0	9,690	200,000
	その他(雑収入)	0	0	0
	小 計	2,166,000	1,966,938	2,166,000
	前年度繰越	1,283,740	1,201,624	1,201,624
	学会基金	3,500,000	3,000,000	3,000,000
	合 計	6,949,740	6,168,562	6,367,624

【支出】	費 目	2013年度予算	2012年度	
			決 算	予 算
	『音楽表現学』 作成費	800,000	449,820	600,000
	ニューズレター 作成費	50,000	18,840	30,000
	名簿 作成費	0	24,030	20,000
	理事会 会議費	20,000	15,840	20,000
	交通費	250,000	146,248	250,000
	編集委員会 会議費	15,000	0	15,000

	交通費	250,000	205,840	200,000
論文集	出版補助・購入費	0	0	0
選挙管理委員会	会議費	10,000	0	0
	交通費	30,000	0	0
	郵送費	50,000	0	0
大会関連費		100,000	83,470	40,000
通信費		170,000	116,600	170,000
払込手数料		5,000	11,430	5,000
事務局費		300,000	236,770	200,000
雑費, 参事交通費等		120,000	75,934	120,000
予備費		100,000		100,000
	小 計	2,270,000	1,384,822	1,770,000
次年度繰越		1,179,740	1,283,740	1,097,624
学会基金		3,500,000	3,500,000	3,500,000
	合 計	6,949,740	6,168,562	6,367,624

\* 2013年5月15日現在会員数 420名

#### 4) 2013-2014年度編集委員会委員の依頼について

杉江淑子事務局長より、【資料8】のように提案があり、原案通り承認された。

【資料8】 2期目：菅 道子、安藤珠希、小野亮祐  
1期目：澤田まゆみ、志民一成、中村隆夫

#### 5) 2013-2014年度選挙管理委員会委員の依頼について

杉江淑子事務局長より、【資料9】のように提案があり、原案通り承認された

【資料9】 2期目：中 磯子  
1期目：鈴木慎一郎、西野晴香

#### 6) 『音楽表現学』「投稿規定」の改正(案)について

杉江淑子事務局長より、提案があり、3点について修正の上、【資料10】のように承認された。

##### 【資料10】 『音楽表現学』「投稿規定」の改正

新	旧
<p>1. 名称と内容</p> <p>日本音楽表現学会は、機関誌として学術研究雑誌『音楽表現学 (Bulletin of the Japan Music Expression Society)』を刊行する。『音楽表現学』には、論文、寄書、展望、解説等を掲載し、使用言語は日本語または欧語とする。<u>原稿は未発表のものに限る。</u></p> <p>2. 原稿の種別</p> <p>原稿には以下の種別がある。</p> <p>(1) 原著論文 (Original paper) : 音楽の演奏、創作、教育等に関する研究論文で、<u>学術研究としての形式を備え、独自の知見を示しているもの。</u></p> <p>(2) 評論論文 (Review article) : 音楽の演奏、創作、教育等に関する独自の見解を論理的に検証するもの。</p>	<p>1. 名称と内容</p> <p>日本音楽表現学会は、機関誌として学術研究雑誌『音楽表現学 (Bulletin of the Japan Music Expression Society)』を刊行する。『音楽表現学』には、論文、寄書、展望、解説等を掲載し、使用言語は日本語または欧語とする。</p> <p>2. 原稿の種別</p> <p>(1) 原著論文 (Original paper) : 音楽の演奏、創作、教育等に関する研究論文で、<u>その内容が有意義であるもの。</u></p> <p>(2) 評論論文 (Review article) : 音楽の演奏、創作、教育等に関する評論論文で、<u>その内容が有意義であるもの。</u></p> <p>(3) 研究報告 (Short report) : 試験的報告、内外諸研究の追試的検討、研究資料の公表、新しい方法の提案など。</p> <p>(4) 寄書 (Letter to the editor) : 研究速報、討論、提案、学会に対する意見など。</p> <p>(5) 展望 : 今日的な問題に関して、今後の展望を記述したもの。</p> <p>(6) 解説 : 特定の主題について、専門外の者にも分かりやすい解説など。</p>

### 3. 投稿者の資格

投稿者および共同執筆者は、その年度の年会費を納入した会員に限る。ただし、依頼原稿執筆者はこの限りでない。

### 4. 投稿本数

投稿者および共同執筆者はその年度に原稿1本を投稿することができる。

### 5. 投稿要領

(7) その他、国際会議参加報告、書評、研究所紹介など。

なお、(1)～(4)の原稿は投稿によるものとし、(5)～(7)の原稿は編集委員会からの依頼によるものとする。

### 3. 投稿者の資格

投稿者および連名者は会員に限る。ただし依頼原稿執筆者はこの限りでない。

### 4. 投稿要領

(1) 原稿の内容は未公開のものに限る。

(2) 原稿の形式および分量。

原著論文，評論論文：20 ページ以内（図表等を含む）

研究報告：10 ページ以内（図表等を含む）

寄書，展望，解説：4 ページ以内（図表等を含む）

- ・原稿の刷り上がりページ数を原則として次のとおりとする。基準を超えるものについては、著者に超過負担金を求める場合がある。

原著論文，評論論文：20 ページ以内

研究報告：10 ページ以内

寄書，展望，解説：4 ページ以内

- ・ワープロ原稿を原則とし，A4 版縦置き，横書きとする。字数は、日本語の場合は1 ページ 2300 字程度とする。欧文の場合は1 ページあたり概ね 1000 語を目安とする。
- ・原著論文，評論論文，研究報告の冒頭には，タイトル，著者名，および，3～5 個のキーワードを記入する。
- ・原著論文，評論論文，研究報告には，和文の場合は 400 字、欧文の場合は 200 語程度の要旨を添付すること。

- ・別紙に，所属（あれば），現住所（または連絡先の住所），電話番号，メールアドレス，および原稿の種別を記入すること。原著論文，評論論文，研究報告については，本文が和文の場合には，タイトルと著者名を欧語で，欧文の場合には日本語で併記すること。

- ・注および引用文献は，論文の最後に一括して記すこと。引用文献の情報には，以下が含まれねばならない：著者，（論文名），書名，出版社，出版年，引用ページ。なお，書式については学会 URL の「引用文献の記載方法例」に従うこと。

- ・また，別紙に，所属，現住所（または連絡先の住所），電話番号，メールアドレス，および原稿の種別を記入すること。原著論文，評論論文，研究報告については，本文が和文の場合には，タイトルと著者名を欧語で，欧文の場合には日本語で記入すること。

- ・図および表には必ず番号とタイトルをつける。なお，譜例，図版，図表については精細なデータを別添すること。縮小作業は印刷所が行うのでサイズに関係なくオリジナルのデータを提出すること。楽譜の全曲掲載は原則として認めない。

- ・注および引用文献は，論文の最後に一括して記すこと。引用文献の情報には，以下が含まれねばならない：著者，（論文名），書名，出版社，出版年，引用ページ。なお，書式についてはホームページの書式例に従うこと。

<p>(3) 原稿は、コピー 8 部を提出し、それとは別にメールに添付する。<u>Microsoft Word</u>での提出が望ましい。譜例・図表などについては、<u>それらに用いたソフト名と OS</u>を明記すること。</p> <p>6. 投稿原稿の採否について</p> <p>(3) 編集委員会は、論文等の採否決定後、速やかに執筆者にその旨通知する。</p> <p>7. 8. 9.</p>	<p>(3) 原稿は、コピー 8 部を提出し、それとは別にメールに添付する。<u>Word</u>での提出が望ましい。譜例・図表などについては、<u>Word</u>に取り込めないソフトを使用している場合には、<u>それらに用いたソフト名と OS</u>を明記すること。</p> <p>5. 投稿原稿の採否について</p> <p>(1) 投稿原稿は、編集委員会によって査読・検討され、その掲載の可否が決定される。なお、編集委員会以外の会員に査読協力を依頼することがある。</p> <p>(2) 投稿原稿は、査読の結果、修正を求められることがある。</p> <p>(3) 編集委員会は、論文等の採否が決定次第、速やかに執筆者にその旨通知する。</p> <p>6. 原稿締め切り 毎年 5 月 31 日とする。</p> <p>7. 学会誌掲載の論文等の著作権は 3 年間学会に属する</p> <p>8. 投稿先及び問い合わせ先 日本音楽表現学会事務局『音楽表現学』編集委員会とする。</p> <p>【附則】省略</p>
---	---

補足

- ・「1. 名称と内容」「原稿は未発表のものに限る。」について、印刷物として公表したもの他、電子媒体での公表論文も含むことを確認した。
- ・「欧文」については、西洋言語を指すが、範囲を明確にすべく、理事会において今後検討する。
- ・「2. 原稿の種別」の「(1) 原著論文 (Original paper)」と「(2) 評論論文 (Review article)」は同じ水準のものであることを確認した。

## 7) 除名処分について

杉江淑子事務局長より、会則第 8 条 (2) に基づき 3 年以上の年会費滞納者 3 名について会員名簿から削除することが提案され、承認された。 **以下、個人情報につき削除**

## 8) 第 12 回大会開催期日と候補地について

杉江淑子事務局長より、第 12 回大会は、村尾忠廣会員を実行委員長として 2014 年 6 月 21 日～ 22 日に帝塚山大学 (奈良市) にて開催することが提案され承認、その後、村尾忠廣実行委員長が今大会欠席のため、挨拶文が代読された。

## 9) その他

杉江淑子事務局長より、今年度発行の『音楽表現学』に 23 本の投稿があり、緊急臨時的に拡大編集委員会を設置することが提案され承認された。委員として、これまでの編集委員長経験者から、安田香会員、小西潤子会員、伊野義博会員の 3 名が推薦され、承認された。

## 5. 閉会の辞

**p.12-15 は別掲「第 11 回 (イーハトーヴ) 大会」をご覧ください。**

### 3. 【会員の感想】

### イーハトーヴ大会に参加して

井上幸子（クラリネット・音楽教育）

「この学会はね、とっても温かくて、楽しい学会だから」と、恩師の中村隆夫初代会長よりお誘いを頂いて以来、4度目の参加となりました。初めて参加して以来、皆様の温かいチームワークと、刺激的な発表、そして各地の美味しい食文化にすっかり魅せられ、毎年、学会の時期を楽しみに迎えています。

東北に行くのは、幼少期に家族で訪れて以来で、お恥ずかしながら、東北新幹線も初体験でしたので、盛岡へ向けてのワクワク度は更に上がっていました。盛岡駅に到着した私の目に飛び込んで来たのは、チャグチャグ馬コの行列。「チャグチャグ馬コ祭りの6月の第2土曜日は、必ず晴れるのです」という佐々木正利実行委員長の笑顔のお言葉から、この大会も、素晴らしいものになることを予感しました。

一番印象に残っていることは、佐藤泰平氏のワークショップで、皆さんと「かしはばやしの夜」を上演したことです。さすがは、表現学会！とばかりの素晴らしい台詞や歌の数々に、ただただ圧倒されました。

その後は、ソルフェージュサロンに参加し、頭にゴーンと鐘を鳴らして頂きました。まだまだ勉強、一生勉強！

「学会で一番大切なのは、懇親会です」恩師を始め、「そうありがたい」と憧れ目標とする方々に沢山お会いできる懇親会も、この学会の最大の魅力です。後藤丹氏のリコーダー2本同時吹きは、毎回とても楽しみにしています。岩手大学の学生さんたちの歌声にもすっかり魅了されました。そして、水色のポロシャツを素敵に着こなすオフィシャルカメラマンの北山理事。研究だけでなく、裏方も鮮やかにこなす。まさに「そうありがたい」と私が憧れ目標にしている姿です。

盛岡滞在中のもう一つの目標は、三大麺の「じゃじゃ麺」「わんこ蕎麦」「盛岡冷麺」を制覇することでした。この学会に参加し、色々な地を訪れる機会が増え、その地に伝わる食文化から「表現の源は、食」ということも、実感して来ました。

よし、今年も沢山の刺激を頂いた、素晴らしい食にも出会えた。そうだ、来年こそは、自分も発表するぞ！と、ここに宣言し、感想とさせていただきます。実行委員会・事務局の皆様、素晴らしい時間を過ごさせて頂き、ありがとうございました。

甲斐万里子（音楽教育）

本大会へは、私にとって2度目の表現学会の大会参加でした。大会中は、佐々木正利大会実行委員長による「チャグチャグ馬コまつり」のジnkスに関するご説明の通り、2日とも快晴に恵まれ、盛岡の風土を存分に味わいながら、学びに集中できる素晴らしい機会となりました。

オープニングに関しては、私事ですが、私には岩手大学出身の友人がたまたま多く、彼らがどんな経緯で音楽家を志したのかに強い関心を抱いておりました。オープニングで岩手大学の方々による豊かな響きが私の心をとらえた瞬間、その理由が判ったように思ったのです。音楽に触れられる喜びを再認識させてもらえるような、圧倒される演奏を聴かせていただきました。

佐藤泰平先生による基調講演では、宮沢賢治のメモに関して、貴重な論考を伺わせていただきました。初めて「詩と音楽は同時進行」であり、「音楽に駆け込むための詩」という観点で宮沢賢治の作品に触れ、とても新鮮な思いでした。そのような視点の共有が、続くワークショップにおいても、会場全体が一つの温かな空間を作り、また、配役の方々を中心とした皆が「かしはばやしの夜」を楽しみながら体験できたのではないかと感じています。

さて、本学会に特徴的な、研究サロンに関しては、私の所属したものについて言えば、「音楽と社会」という大きなテーマのみを共有し、あえて対象を限定せずに、専門領域を異にする会員らが、「社会」と関連した課題意識を発言し合いました。阿部亮太郎会員による話題提供と問題意識の原案から示唆を得て、それぞれの立場から議論したり、共感し合ったりする中で、徐々に視点が焦点化されていきました。そのような研究の構想段階からの試行錯誤に参加させていただけたことは、まだまだ研究初心者の私にとって、これ以上ない幸せで、身の引き締まる学習のひと時でした。

このような体験と、自由討議の会場の雰囲気からは、それぞれのサロンの活動も活発であったことが推察され、それぞれのサロンの研究内容及び、本大会で研究発表が行われた3つのサロンの発展に対する関心は募る一方です。本大会で拝聴できたご発表のどれもが大変に興味深いものでした。紙幅の都合でその一つ一つについて述べることは避けさせていただきますが、それらの今後が気になり、来年の大会を今から楽しみにしている次第です。

今年度は第 1 日目の分科会 I の時間帯で 4 室に分かれて、関心のテーマ・トピックスで話し合いました。以下はその報告です。今回参加できなかった方も、ご関心の分野のサロン連絡担当者にぜひご連絡ください。

### 「楽器と音楽表現」—ピアノグループ

このサロンは、具体的テーマを掲げて始まりました。大会時のサロンでは、そのことの結果が正負両面が出たと思います。評価できることは後述させていただくとして、負は、参加者の皆様の率直なご発言の場となりにくかったことです。この点の改良を含め、本サロンのよりよい姿に向けてのお世話を今後お若い方々に託すことになりました。皆さま、ピアノ演奏について常々お考えのこと、話し合いたいことを今後の連絡係をしていただく小野亮祐さんにお寄せ下さい。

以下は、「ピアノ演奏におけるテクニックと音楽表現の連関—練習曲・教則本に焦点を当てて—」分科会のレポートです。

参加者多数。三島郁さんと野崎博子さんの実音入りの説得力ある発表、柳井修さんの知的な司会によって、「テクニックと音楽表現の関係」が時代とともに変化してきたことが再認識できた。昨今、「鍵盤楽器の変化」と「練習曲を含め楽曲の様式の変化」の関係を社会的に論じる研究が盛んである。しかし、当日実感できた「時代変化」は、生身の人がもたらしてくれたものであり、ここに本サロンの意味がある。日々しこしこ楽器に向かっている人たちの集うこのサロン、更なる体を張った問題提起に期待が高まる。

(安田香 記)

連絡係：小野亮祐 urbs-lipzi@y9.dion.ne.jp

### 「楽器と音楽表現」—管弦打楽器グループ

もしかして私だけのサロンになるのではないかと、という不安を感じておりましたが、今大会から新たに参加された 4 人を含む、11 名の方々に集まっただけでした。この管弦打楽器サロン、様々な楽器の演奏家が集まっっており、今回も多岐にわたるテーマもについて話されました。その中から抜粋して簡単にご紹介します。

「導入期の基礎学習」に関しては最も多くの議論が交わされました。「指導の方法」「正しい情報の伝達」「教則本の使用法」「指導システムの構築」といった点は今後も重要なキーワードになりそうです。また「耳の鍛え方、気づき」について話す中では「響きとは何か、見えないものをこのサロンで追究してはどうか」という意見が出されました。

もちろんこれ以外にも話題は尽きず、今後もますます

このサロンが盛り上がっていくことを確信いたしました。まだ参加されていない方も、興味が湧きましたらぜひ私までご連絡ください。

(長谷川正規 hasegawa@juen.ac.jp)

### 「発声と音楽表現」

他のグループ発表のあおりを受けたせいもあるのか、参加者 6 名と少人数でした。今回、あまりテーマを固定せずに雑談風楽しく時間を過ごしましたが、「サロン」ですからそういう進行も良いのかと思います。

特に児童発声について関心の高い会員が複数おられ、胸声やファルセットの定義から具体的な合唱指導法にまで話が及びました。また、私が用意した日本語をいかに旋律化し表記するかという問題についても話し合うことができました。このたび初めて大会に参加された方も加わり、新鮮な気持ちを味わうことができたのも収穫です。

(後藤 丹 goto@juen.ac.jp)

### 「ソルフェージュを考える—これでいいのかソルフェージュ?—」

当日を迎える前に、5 人の提言者の間で何度かメールで意見交換しました。はじめにつまずいたのは、ソルフェージュを受けるのが誰か（年齢や目的）によって、アプローチの仕方がまるで異なるということです。提言者は全員大学関係者ですがそれぞれの授業担当部門はピアノ教育 2 名、学校教育 2 名、就学前教育 1 名とまちまちです。共通の視点から意見を述べるのはむずかしいと考え、それぞれが日常的に感じている問題点を以下のテーマで 10 分ずつコメントし、それに対して参加者から感想や意見を求めるという方法をとりました。

- ・ピアノ演奏のためのソルフェージュ 田島孝一
  - ・すぐに役だつソルフェージュ 飯島元子
  - ・学校教育においてソルフェージュはなぜ、どのように必要か? 尾見敦子
  - ・コールユーブンゲンを『つまらない』といったのは誰だ! 中村隆夫
  - ・拍感の把握の重要性 矢内淑子
- なお、参加者の背景を把握するためにアンケートを実施しました。詳細は『音楽表現学』Vol.11「大会報告」に掲載の予定です。(中村隆夫 tknkmr@ksn.biglobe.ne.jp)

### 「身体と音楽表現」

今回はミュージカル等の教育活動支援、情報交換に範囲を狭めて声掛けをしたため、参集下さった人数は 3 名と少なかったのですが、今後の話題、研究内容に示唆を

与える大変有益な討論ができたように思います。

まず、イタリアの学校・社会における舞台表現教育（テアトロ教育）の取り組みと音楽表現の関わりについて話題提供がありました。正規授業枠での展開で、小中学校のカリキュラムに導入されているものです。優秀な指導者を確保することの困難さや、演劇経験の無い教員を対象とした指導者養成等、様々な課題があるようですが、身体表現と音楽表現がリンクする教育活動の重要性を、方法論ではなく本質から学び合うことが大切だという意見がありました。

また、教員・保育士養成校におけるミュージカル活動等について、教育活動として制作過程の重要性を理解しながらも、公演を成功させるという目標に拘束されてしまい、達成感や感動等を卒業後の人生で十分に活かせず、一過性のイベントになってはいないか危惧する意見や、多様化する学生気質を考慮し、指導方法も常に模索し続けることの大切さへの言及もありました。

今後は、ミュージカル活動等の情報交換のみならず、教育活動における身体表現をより本質的に探究し、テアトロ教育と音楽表現についても知見を深め、演劇と音楽との関わり、教育における身体と音楽表現の重要性、諸課題について学び合いたいと考えています。

(土門裕之 domon@takushoku-hc.ac.jp)

### 「音楽表現と社会」

まずは情報交換から・・・と、漠とした状態でスタートを切ったのですが、実際には予想以上に密度の濃い議論へと入っていきましました。参加者は7名。議論は行きつ戻りつしつつも、音楽表現と社会との関わりを巡って、いくつかの重要な問いが浮き彫りにされました。

音楽による「はげまし」「癒し」「心の支え」といった効果は否定できないが、そのことが一方で、被災、貧困などの問題の本質を隠し、風化させ、“ショック・ドクトリン”への加担につながっていないか。表現、とりわけ若者による表現は明るく生き生きしたものであるべきだなどといった考えが暗黙のうちに存在しているのではないか。その一方で、芸術表現によって「社会を告発する」ことが自己の表現の正当化につながっていることがないか。個々が思うこと（個と音楽）をどう考えるのか等々。容易に解答の見つかるはずもない問いばかりですが、こうしたテーマを「やさしく・ふかく・おもしろく」語れるサロンでありたいと思います。なお、今後の連絡係を甲斐万里子さんに引き受けていただきました。

(杉江淑子記)

連絡係：甲斐万里子 toratomariko58@yahoo.co.jp

### 「作曲技法と音楽表現」

自分自身の作品や、演奏表現そのものを題材とし

て論文を書くことには、いつも、ある種の困難さがつきまといまします。すなわち、自分自身の投影という性格の強さのために、例えば、「研究報告」という枠組みを超えて、「原著論文」というような形での成果には、なかなか難いのです。

「作曲技法と音楽表現」サロンでは、「作曲技法」を媒介とし、創造を「編集」と捉えることによって、「原著論文」における「先行研究についての言及」に相当するものを探ろうという試みを行いました。今回は、「作曲」および現代作品の「演奏」という2つの立場から、趣旨を踏まえた発表が行われ、活発な議論となりました。この議論に参加しながら、「今回の発表は、すぐに論文にすることができる」という感触を得ることができたのは、うれしい限りです。「創作」、そして「演奏」についての研究は「音楽表現学」というカテゴリーの中心に位置するものと考えています。「作曲技法と音楽表現」のサロンにご参加ください。(小畑郁男：kobata081208@gmail.com)

### 「日本音楽」—「邦楽」と「洋楽」との架け橋を探る—

「ご興味のある方、日本音楽のサロンへどうぞ」との声かけに、4名が集まりスタートしました。邦楽や洋楽の関わりの中で感じる疑問や希望を「サロン」という言葉の魅力に誘われて自由に語り合う時間は、「邦楽」と「洋楽」を「音楽」として捉えて、大切に向かい合いたいという共感や展望がありました。

<意見交換から>一般的には、「邦楽」は「洋楽」と対比され、その間に高い垣根があるように言われていますが、幼い頃から「邦楽器」と「洋楽器」に親しんできた私の中では、どちらも普通の「音楽」です。サロンの話し合いの中で、その「垣根」を低くする切り口が見つかればよいと思います。(安藤珠希)

雑談と愚痴の中から展望が開けるかもしれません。連絡担当の山下さんへメールでご連絡ください。(安藤政輝)

私は、「邦楽」と「洋楽」が、敬遠や譲り合いではなく、共に認め合い、活かし合いながら「融合」する試みや、「邦楽」から距離のある方々に、親しみやすい形で表現することはできないだろうかと考えていました。楽器、演奏、理論、教育形態等、多方面から「融合」のための通訳ができるように比較、研究、意見交換の場としていきたいと考えています。(鈴木佑未子)

自国の音楽である日本音楽を知ることは、次世代の子ども達に伝える愛しく大切なものの認識に繋がると考えます。宮城道雄らが炬燵を囲んで「新日本音楽」を語ったように、サロンから始まる音楽の展望に期待し、皆さんと共に活動できることを楽しみにしています。

(山下真由美 yamashita.mayumi7@gmail.com)

## 『音律論 ソルミゼーションの探究』について

(2013年 春秋社刊)

杉山 雄一 (ヴァイオラ)

この著書は、「あとがき」によると、日本ソルフェージュ研究協議会での講演をもとにまとめられたものである。東川清一は日本における「音律」や「ソルミゼーション」に関する研究の第一人者であり、『退け、暗き影『固定ド』よ!』(1985)、『古楽の音律』(2001)など関連著書も多い。この『音律論』は、数ある氏の著書のダイジェスト版といった趣だ。東川の根底には、ドイツの科学者、ヘルマン・フォン・ヘルムホルツの著書『音感覚論』(1862初版・第5版1895)及び、P. F. トージ著 J. F. アグリーコラ独訳の『歌唱芸術の手引き』(1755)の理論があり、それらをもとに、独自の解釈を加えて彼の持論が展開される。

まず「音律論への序」では、「"純正律"と"平均律"はどこでどう違うのか」と問いかけ、読者を音律論の世界へ引っ張り込む。純正律音程について53分割法を用いて丁寧に説明していく。結論として両者の決定的な違いは「長3度にある」と結ぶ。

続く章は「音律論：ソルミゼーションの探求」である。伝統的な「移動ド」教育システムとして、コダーイ・メソッドや、ジョン・カーウェンの確立したトニック・ソルファ法を挙げ、持論を展開していく。ソルミゼーションの方法よりも、理論を中心とした解説が進められる。

また「旋法」についての記述では、一口に「音階」といってもその音高素材には時代や音楽文化圏の違いによっていろいろなものが存在するとし、「類」「均」「調」「旋法」の観点から比較検討しなければならないと論じている。

付論として、「オーケストラ楽器・歌唱における純正音程の使用」「ボザンケによる純正律オルガン」が掲載され、純正律で演奏することの重要性が語られて、この論は終わる。

東川の主張は「現代の音楽家は効率優先の平均律に慣れ、純正律を忘れてしまった。しかし美しい音楽を演奏するには、音の唸りの無い、美しい響きのする純正律の理論を学び、演奏するようにならなければならない。」ということに尽きる。読者は、この主張の背景を知らないと、話の流れについていけないであろう。平均律とは何か。純正律とは？ピタゴラス音律とは？なぜ1オクターブを53分割するのか？トニック・ソルファとは？ある程度の予備知識が必要だ。

ところで、この著書にはヴァイオリニストが採用

すべき音律について検証する箇所がいくつかあり、弦楽器が専門の筆者としては見逃せない。弦楽器奏者にとっては、音程を合わせることが死活問題だからである。では、いったい何を基準に音程の「合う」「合わない」を決めているのであろうか。ある者は「純正律だ」と言い、ある者は「ピタゴラス音律だ」と主張する。また他の者は「いやいや、ピアノと合わせるには平均律じゃないと具合が悪い」と言う。

我々弦楽器奏者は旋律を演奏する時、経験的に「導音を高めに」弾いたり、「和音が期待する音程よりも僅かに高めに」弾いたりする。旋律を印象的に聴かせるためである。和音に関してはどうだろうか。旋律以外の楽器は、旋律音を基準に音程を合わせる。例えば長三和音の場合「第3音は低めに」なるように第1音と第5音の音程を決定する。これはまさしく、和音を「純正律」で合わせていることになるが、裏返して言えば、旋律を演奏する時は第3音を「高めに」弾くわけで、「ピタゴラス音律」で演奏しているということにならないだろうか（これらの事実に関しては本書のpp.103-104にも言及がある）。また、ピアノと合わせる時は平均律に敬意を払いつつ、微妙に折り合いを付けながら弾いている(p.3)。ところがヘルムホルツの実験では、かの有名なヨアヒムはG-Durの音階を純正律で弾いたとされている。彼はいかなる場合も純正律で演奏したのであろうか。非常に興味深い実験結果である。また、パトリッツィオ・バルビエーリ執筆の「ヴァイオリンの音律—歴史的概観」によれば「18世紀中頃までは、ヴァイオリニストは一種の純正律なり、中全音律で演奏していた」そうである(p.4)。これは我々の演奏習慣と違うが、現代人の耳が平均律に慣れ、雑多な響きを好むようになったからだろうか。

筆者の経験から言うと、例え平均律に慣れた耳であろうとも、弦楽器奏者は基本的に純正律を求めるであろう。なぜならば、その方が心地よい響きを得られるからである。そして相手に合わせてその都度、音程の調節をしながら演奏する。ただ、なぜ純正律だと美しい響きがするのか、なぜ長三和音の第3音を低めに取るとうまく調和するのか、今までは理論的裏付けなく演奏していた。しかし、この東川の書のように、一筋の道を作る理論書があれば、自信を持って心地よい響きを追求できるのではないか。

ぜひ読んで欲しい一冊である。

---

## 新入会員紹介 (個人情報につき削除)

---

---

### 日本音楽表現学会後援コンサート等情報

---

- 鶴澤友球さん  
(向田由美)      **鶴澤友球 浄瑠璃ライブ vol. 7**  
日 時：2013年5月19日(日)14:00 開演  
会 場：向田宅  
演 目：『生写朝顔日記』〈宿屋より大井川の段〉  
出 演：竹本友和 (太夫：淡路人形座) 鶴澤友球 (糸)
- 鶴澤友球さん  
(向田由美)      **鶴澤友球 浄瑠璃ライブ vol. 8**  
日 時：2013年6月22日(土)14:00 開演  
会 場：向田宅  
演 目：『傾城阿波の鳴門』〈十郎兵衛住家の段〉
- 鶴澤友球さん  
(向田由美)      **鶴澤友球 浄瑠璃ライブ vol. 9**  
日 時：2013年7月15日(月・祝)14:00 開演  
会 場：向田宅  
演 目：『菅原伝授手習鑑』四段目〈寺子屋の段〉(奥)
- 鶴澤友球さん  
(向田由美)      **鶴澤友球 浄瑠璃ライブ vol.10**  
日 時：2013年8月18日(日) 14:00 開演  
会 場：向田宅  
演 目：『鎌倉三代記』七段目〈絹川村の段〉より「三浦別れ」  
料 金：一般 1,400円 高校生以下 1,000円  
後 援：淡路市 淡路市・洲本市・南あわじ市各教育委員会 (財)淡路人形協会 他  
申込み・問合せ：Tel・Fax：0799-62-5805 E-mail：tsuruzawa-tomoku@ezweb.ne.jp
- 山崎わかなさん      **山崎わかなピアノリサイタル**  
日 時：2013年8月2日(金)  
会 場：札幌 ザ・ルーテルホール  
主要内容：ハイドン「ピアノ三重奏曲」ト長調 Hob.XV:25「ハンガリー風」、シューマン  
ピアノ五重奏曲 変ホ長調 Op.44 他  
料 金：入場無料  
主 催：Emsemble Quattoro Foglie  
共 催：被災地にピアノを届けるネットワーク
- 山名敏之さん      **第1回 バッハマニア～インヴェンションとシンフォニア(1)**  
日 時：2013年8月11日(日) 16:00 開演  
会 場：熊取交流センター煉瓦館 コミュニティ支援室  
主要内容：J.S. バッハ インヴェンション No.1-8、シンフォニア No.1-8、トッカータ  
嬰へ短調、イギリス組曲 No.1 他  
演 奏 者：山名敏之・朋子 (チェンバロ)  
料 金：2,000円 (学生 1,000円)

- 山田まゆみさん **Summer concert ～夏の思い出～**  
 日 時：2013年8月24日(土)  
 会 場：豊中市立ルシオーレホール  
 主な内容：自作の演奏。ピアノの名曲、ピアノ連弾曲の演奏  
 出 演：山田まゆみ、中川千絵、中北 路代
- 牛渡克之さん **東北ブラスキャンプ 2013**  
 期 日：2013年8月31日(土)～9月1日(日)  
 会 場：ふるさと体験館(岩手県北上市)  
 主な内容：レッスン、資料展示、受講生の成果発表会、講師演奏会など  
 演 奏 者：牛渡克之(Eup)、ピーター・リンク(Tub)ほか  
 受 講 料：20,000円(宿泊・食費込)
- 佐藤裕美子さん **佐藤裕美子ピアノリサイタル**  
 日 時：2013年9月1日(日)14:00開演  
 会 場：兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール  
 主な内容：ブラームス「6つの小品」Op.118、J.S. バッハ＝ブゾーニ「シャコンヌ」、  
 シューベルト「幻想曲」ハ長調〈さすらい人〉D.760 Op.15 他  
 料 金：一般2,500円 高校生以下1,000円
- { 小畑郁男さん **楽譜をどう表現するか？ピアノソナタに聴く心の動き**  
 佐野仁美さん  
 松井 萌さん  
 日 時：2013年9月15日(日)14:00開演(13:30開場)  
 会 場：逸翁美術館マグノリアホール(大阪府池田市)  
 主な内容：モーツァルト「ピアノソナタ」KV333、ベートーヴェン「ピアノソナタ」op.31-2、  
 ショパン「ピアノソナタ」op.35  
 出 演 者：小畑郁男(解説)、佐野仁美(Pf)、松井萌(Pf)、他  
 料 金：無料
- 酒井勇也さん **酒井勇也サクソフォンリサイタル～ Tales from the UK ～**  
 日 時：2013年10月27日(日)14:00開演(13:30開場)  
 会 場：広島市東区民文化センター小ホール  
 主な内容：M. ナイマン「ミゼレーレ・パラフレーズ」、J. ハール「3羽のカラス」、J. t.  
 フェルドハウス「ザ・ガーデン・オブ・ラブ」、E. グレグソン「サクソフォ  
 ン協奏曲」他  
 演 奏 者：酒井勇也(Sax)、四童子裕(Pf.)、宮埜舞(Sop.)  
 料 金：一般2,000円 学生1,000円(当日500円増)
- 牛渡克之さん **牛渡克之ユーフォニアムリサイタル Vol.9**  
 日時/会場：2013年9月28日(土)JTホールアフィニス(東京)  
 10月12日(土)ドルチェ・アートホール NAGOYA(名古屋)  
 主な内容：マルチェロ「ソナタ第3番」、小室昌広「3つの風情」(ユーフォニアム版初演)、  
 グレグソン「シンフォニック・ラブソディ」他  
 演 奏 者：牛渡克之(Eup)、新居由佳梨(Pf)  
 料 金：前売り 一般3,000円、大学生以下2,000円(当日500円増・全席自由)
- 加藤晴子さん **第2回たおやかに美しい日本の歌**  
 日 時：2013年9月29日(日)16:00開演  
 会 場：岡山ルーテル教会  
 趣 旨：数多い日本歌曲の中から中田喜直作品を取り上げ、言葉や詩と旋律の美しさ

を追求し、演奏者と聴き手がそれを共有できる場をもつ。

主な内容：中田喜直作曲《六つの子供の歌》、《八つの子供の歌》、《歌をください》他

演奏者：加藤晴子 (Sop)、小島裕子 (Pf)、文裕理 (Pf)、丸田紫生 (Sop)

料 金：2,000 円

田中宏明さん 田中宏明ピアノ・リサイタル (きょうぶん名曲コンサート)

日 時：2013 年 10 月 18 日 (金) 19:00 開演

会 場：札幌市教育文化会館小ホール

主な内容：バッハ「フランス組曲第 1 番」BWV812、シベリウス「樅の木」Op.75-5、  
「カプリス」Op.24-3、ショパン「華麗なる大円舞曲」Op.18、ベートーヴェン「ソナタ」Op.27-2〈月光〉、シューベルト「即興曲」Op.90-4、「さすらい人幻想曲」Op.15

料 金：前売り 2500 円、当日 3000 円 (全席自由)

小畑郁男さん アウラ・ラストコンサート / ヨハネ受難曲

日 時：2013 年 11 月 10 日 (日) 14 時開演

会 場：長崎松がう国際ターミナルビル

主な内容：小畑郁男作曲の日本語による《ヨハネ受難曲》(初演、演奏時間)90 分

演奏者：指揮：小畑郁男他

料 金：無料

---

## 会員による新刊

---

藤原嘉文さん他 《BACH 平均律クラヴィア曲集 分析・演奏》

作曲家 矢代秋雄(1929 年～ 1976 年)が急逝のために世に出すことができなかった『演奏につながる《平均律》研究』。その意志を継ぎ 35 年振りに夢を叶えるべく、当時受講していた弟子グループでプロジェクトを立ち上げ、4 年がかりで研究・制作を進めてきた全集がいよいよ完成。《平均律》を学習・指導する人たちににとってわかりやすい分析・解説と、その研究成果を反映した録音 CD がセットされた永久保存版です。

【セット内容】 \* 平均律クラヴィア曲集第 1 巻研究解説書 (181 頁)

\* 平均律クラヴィア曲集第 2 巻研究解説書 (204 頁)

\* 分析図 (フーガ全曲、及びプレリュード数曲の分析チャート、全 69 頁)

\* CD 4 枚 (1、2 巻プレリュードとフーガ全 48 曲、研究成果を再現した新録音)

\* FugaNAVI (フーガの一般的な構造が一目で分かる早見シート)

【制 作】 バッハプロジェクト (坂弘子、蛭多令子、田中孝佳、平井正志、藤原嘉文他全 8 名)

【発 売 元】 株式会社 ケイ・アイ・エム

ISBN978-4-9018-5213-2 定価：25,000 円 (税込、送料別)

【お問い合わせ】 bachprowk@gmail.com (バッハプロジェクト/藤原)。

上記にご連絡戴ければ、16,000 円 (税込、送料込み)

でお送り致します。

後藤 丹さん [標準] たのしいフルート二重奏

編曲/解説：後藤 丹 ピアノ伴奏、パート譜付き、全 10 曲

出 版：全音楽譜出版社 7 月 15 日刊 2,205 円

ISBN978-4-11-548533-4

---

## 教員公募情報

---

静岡大学教育学部 職 名：講師または助教・1名

専攻分野：ピアノ（音楽教育分野も担当できることが望ましい）

締め切り：平成25年8月23日（金）必着

詳 細：静岡大学 URL

[http://www.ed.shizuoka.ac.jp/wpdata/wp-content/uploads/2011/12/koubo\\_piano\\_2013.pdf](http://www.ed.shizuoka.ac.jp/wpdata/wp-content/uploads/2011/12/koubo_piano_2013.pdf)

rec-In の公募 URL

[http://jrecin.jst.go.jp/seek/SeekJorDetail?fn=1&id=D113061173&ln\\_jor=](http://jrecin.jst.go.jp/seek/SeekJorDetail?fn=1&id=D113061173&ln_jor=)

愛媛大学教育学部 職 名：教授または准教授・1名

専門分野：器楽（管楽器）

締め切り：平成25年8月30日（金）必着

詳 細：愛媛大学の公募 URL

[http://www.ehime-u.ac.jp/information/employment/teacher\\_details.html?new\\_rec=10742](http://www.ehime-u.ac.jp/information/employment/teacher_details.html?new_rec=10742)

---

## 研究支援情報

---

ヤマハ音楽支援制度 研究活動支援 2014年度対象者募集のお知らせ

支援対象：2014年4月～2015年3月の間に行われる音楽をテーマとした研究活動

- ・音楽を科学的あるいは社会学的視点から考察した研究活動
- ・個性的かつ創造性に富んだ研究活動
- ・音楽文化の向上に有益な、又は新しいテーマを持った研究活動

支 援 額：1件につき100万円まで（返済不要）

募集期間：2013年9月2日（月）～9月30日（月）必着

面接選考：2013年11月5日（火）〈書類選考通過者のみ〉

応募方法：2013年9月2日（月）より Web にて応募受付開始

詳 細：ヤマハ音楽振興会 Web サイト <http://www.yamaha-mf.or.jp/shien/>

---

## 事務局からの重要なお知らせとお願い

---

### 1. 年会費の納入について

- ・年会費未納の方には今回ニューズレターとともに、「郵便振込票」を同封しています。過年度分が未納の方の振替票には、未納年度に印を入れてあります。行き違いご送金済みの場合はご容赦ください。
- ・学会は皆様方の年会費で運営されています。機関誌の発行、大会の開催など、さまざまな活動に支障をきたすことのないよう、速やかな納入をお願いいたします。
- ・納入は必ず郵便振替でお願いします。なお、学会では原則として領収書発行はいたしませんので、無意識滞納対策の一助として、納入後はただちに、「振替払込請求書兼受領証」（ATM ご利用の場合は「ご利用明細票」）に、納入年度をメモの上、保存されることをお勧めいたします。

### 2. 住所・所属・電話番号・メールアドレスの変更は、速やかにお届けください。

下記アドレスから「会員情報フォーム」に変更事項を入力いただくか、事務局まで変更事項をお知らせ

ください。http://www.music-expression.sakura.ne.jp/form/postmail2.html

### 3. ニュースレターへの投稿

ニュースレターは会員の交流の場です。音楽表現に関するご意見など、ご寄稿ください。

- ・研究ノート、随想など：図表等を含めて刷り上がり 1 頁以内。
- ・コンサート情報：学会後援のものを掲載します。
- ・新刊案内・CD/DVD リリース：会員による刊行物の紹介。購入方法なども含めてお知らせください。
- ・その他：所属されている他学会の情報などもお寄せください。
- ・投稿受付は随時、ワードの添付書類で学会事務局宛にお願いします。

music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

### 4. 『音楽表現学』バックナンバー購入方法

メール等で事務局までお申し込みください。以下の代金は、到着後郵便振替でお願いします。

会員価格：Vol.2～Vol.3 は 1 部 1500 円+送料

Vol.4～Vol.10 は 1 部 3000 円+送料

一般価格：Vol.2～Vol.3 は 1 部 3000 円+送料

Vol.4～Vol.10 は 1 部 3500 円+送料

大学図書館などへの納入については事務局にお問い合わせください。なお、Vol.1 は残部がありません。

### 5. 学会の会員サポート制度をご活用下さい。

- ・機関誌『音楽表現学』への投稿：『音楽表現学』に論文が掲載されると、大学などでは「査読付学術論文」としての評価を受けます。年度末などに業績の報告をされる際には、その旨をお記し下さい。
- ・大会での発表：本学会ならではの生の音楽表現を含めた研究発表の機会をご利用ください。
- ・コンサートの後援・協賛：本学会ホームページのリンクから〔コンサート等公演/協賛申請フォーム〕にて申請してください。

## 各種書式

### 1. 「入会申込書」

入 会 申 込 書	[備考]
日本音楽表現学会に入会を申し込みます。 年 月 日 氏 名 (ふりがな): 専門分野: 所 属: 自宅住所: 〒 連絡先: (上記と異なる場合) 〒 連絡先 Tel.: 連絡先 Fax.: e-mail: 推薦者名 (学会員・1名) 音楽表現学会に期待されること。ご意見等:	・「入会申込書」を送付いただきましたら、事務局から年会費納入のための郵便振替票を送ります。年会費ご入金の確認をもって手続きを進め、入会承認後、「入会承認のお知らせ」文書をお手元にお届けします。 ・入会申込書はHPからもダウンロードできます。 ・学会からの連絡（印刷物お届けなど）は、ご記入いただいた「連絡先」に届けます。 ・お届けいただいた情報は、事務局で厳重に管理し、学会事務以外の使用目的には供しません。

### 2. 「後援願」〔コンサート等後援・協賛申請フォーム〕にて申請ください。

「後援願」は、本学会ホームページのリンクから〔コンサート等後援・協賛申請フォーム〕に必要事項を記入して申請していただきますよう、ご協力よろしくお願いたします。

### 3. その他 他の書式が必要なときには、事務局へお申し出下さい。

# 日本音楽表現学会第12回大会のご案内

- ・ 期日：2014年6月21日（土）～22日（日）
- ・ 会場：帝塚山大学学園前キャンパス（奈良市学園南3-1-3）  
近鉄奈良線「学園前」（特急・快速急行・急行・準急が停車）下車徒歩約1分

- ・ 実行委員長：村尾忠廣
- ・ 会場へのアクセス

## 【陸路】

名古屋・東京方面から【東海道新幹線】利用

「京都」下車、近鉄京都線「大和西大寺」で  
「なんば行」に乗換「学園前」下車。（約41分）

岡山・広島・九州方面から【山陽新幹線】利用

「新大阪」下車、市営地下鉄御堂筋線に乗り換え  
「なんば」下車、「なんば」から「近鉄奈良行」で  
「学園前」下車（約40分）

神戸方面から

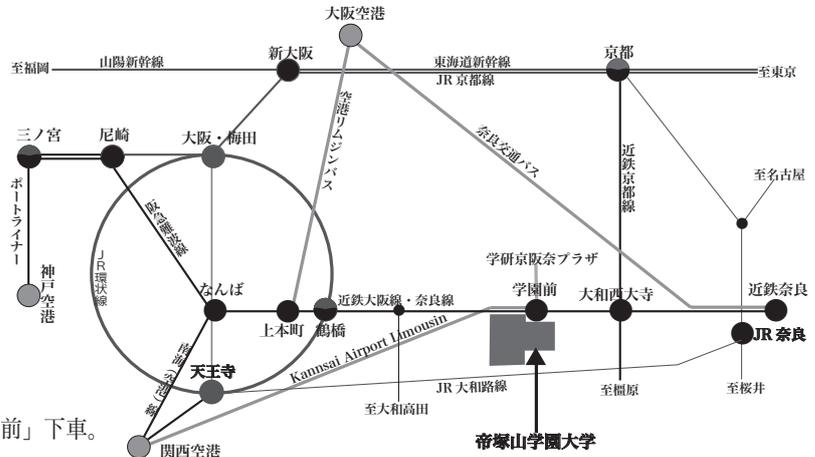
阪急「三ノ宮」から阪神近鉄相互乗り入れ「学園前」下車。  
（約65分）

【空路】「関西空港」利用：関西エアポートリムジンバス「学研京阪奈プラザ行」で「学園前」で下車。（約80分）

「大阪（伊丹）空港」利用：奈良交通バス「近鉄奈良行」で「大宮」または「近鉄奈良」で下車。近鉄大阪線で「学園前」下車。（約75分）

空港リムジンバス「近鉄上本町行」で「上本町」で下車。近鉄大阪線「学園前」で下車。（約70分）

「神戸空港」利用：ポートライナーで「三ノ宮」へ、阪急「三ノ宮」から阪急近鉄相互乗り入れ「学園前」で下車。（約85分）



## 2013年度役員一覧

会 長： 安藤 政輝  
副 会 長： 北山 敦康  
事 務 局 長： 杉江 淑子  
理 事： 奥 忍（事務局担当）  
後藤 丹（総務担当）  
小畑 郁男（会計担当）  
吉永 誠吾（会計担当）

### 編集委員会：

委員長 菅 道子  
副委員長 中村 隆夫  
委員 安藤 珠希 小野 亮祐  
澤田まゆみ 志民 一成  
拡大委員 伊野 義博 小西 潤子 安田 香

### 選挙管理委員会：

委員長 中 磯子  
委員 鈴木慎一朗 西野 晴香  
監 事： 海津 幸子 谷口 雄資  
会長諮問会議：草下 實 佐々木 正利  
中村 隆夫 安田 香  
参事：（事務局）似内 裕美子 松井 萌  
近藤 晶子  
（会計担当理事付）袴田 和泉

## 編集後記

岩手県に「イーハトーヴ」を見いだした宮澤賢治。聴く音楽がすべて図形や色となって彼の目に映ったとか。入手できる限りのレコードを鑑賞し、歌い、チェロやオルガンを弾き、「星めぐりの歌」などの名旋律までも残した特異な文学者。童話「セロ弾きのゴーシュ」では、なんと含蓄豊かに音楽表現について語っているとか。私たちの学会にとっても、非常に大切な人物と言えるでしょう。

賢治と同郷の佐々木木大会実行委員長も熱くその精神を受け継ぐおひとり。委員長の推挙による佐藤泰平さんの講演とワークショップは、賢治の作品と音楽とが一般に思われている以上に深くつながっていることを納得させてくれました。

掲載された楽しい文章と多くの写真をご覧になって、今回さまざまな事情で運悪く参加できなかった会員の皆様は大いに残念がっているでしょう。

来年の開催地は、「風立ちぬ」を書いた小説家、堀辰雄が「僕たちにとってのギリシャ」と呼んだ奈良です。

（後藤 <sup>まこと</sup>丹）